

防災コンパクト先行モデル都市

防災コンパクト先行モデル都市（R2.7.10時点）

<選定の考え方>

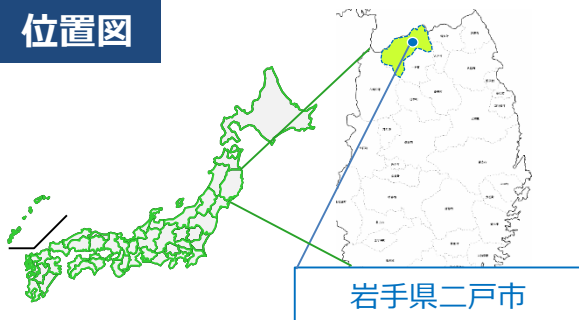
- コンパクトシティの取組において、都市の防災・減災対策に意欲的に取り組む都市であり、令和2年度中の防災指針の市民への提示や作成・公表を目標としていること
- 他の自治体が防災指針を検討・作成するにあたり先行事例として模範・参考となるよう、取組状況の段階的・定期的な公表への協力が可能であること
- 災害ハザード情報の入手等にあたり、河川管理者等との連携体制が整っていること

番号	市区町村名		人口 (H27国調)	立地適正化 計画公表日	番号	市区町村名		人口 (H27国調)	立地適正化 計画公表日	番号	市区町村名		人口 (H27国調)	立地適正化 計画公表日
		都道府県					都道府県					都道府県		
1	二戸市	岩手県	27,611	作成中	6	秩父市	埼玉県	63,555	作成中	11	倉敷市	岡山県	477,118	作成中
2	南陽市	山形県	32,285	作成中	7	厚木市	神奈川県	225,714	作成中	12	久留米市	福岡県	304,552	H29.3.31
3	郡山市	福島県	335,444	H29.3.31	8	福知山市	京都府	78,935	作成中	13	熊本市	熊本県	740,822	H28.4.1
4	須賀川市	福島県	77,441	R1.6.30	9	高槻市	大阪府	351,829	H29.3.31	14	益城町	熊本県	33,611	作成中
5	宇都宮市	栃木県	518,594	H29.3.31	10	忠岡町	大阪府	17,298	作成中	15	日向市	宮崎県	61,761	作成中

防災指針の検討状況：岩手県二戸市

平成25年9月の台風18号による洪水により市街地の浸水被害が発生。既往の水害や、土石流による土砂災害想定と、既往の市街地の成り立ち等を総合的に勘案した居住誘導区域の設定や、区域内の防災・減災対策を検討。

位置図



過去の災害における被害状況

○二戸市石切所・堀野・金田一地内等（居住誘導区域外）において広範囲に浸水被害・土砂災害が発生。（H25年台風18号）

○被害状況
〔床上・床下浸水：128棟、人的被害：軽傷者4名〕



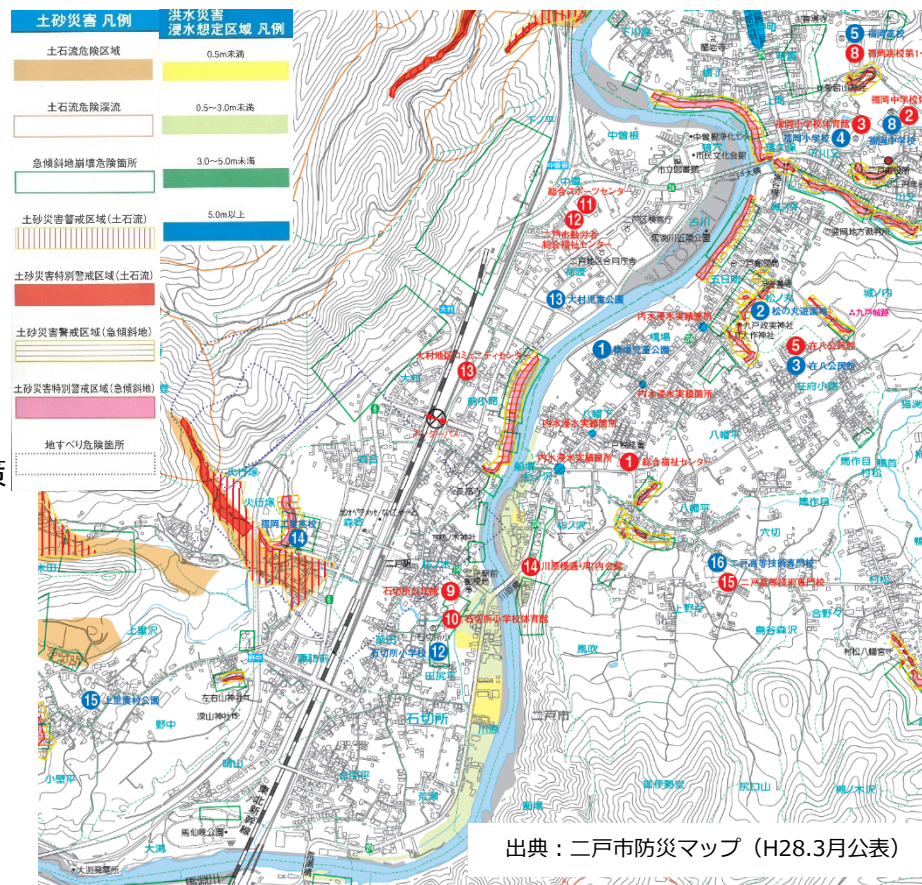
H25. 9月、堀野地区 馬淵川

H25. 9月、石切所地区 馬淵川

防災上の課題と 防災対策の取組の方向性

○過去のの水害で市街地において
度々浸水被害・土石流が発生

- 浸水想定区域の居住誘導区域からの除外検討
- 居住誘導区域内の雨水排水対策等による浸水対策
- 内水排水施設的能力向上
- 地区ごとの避難行動計画策定

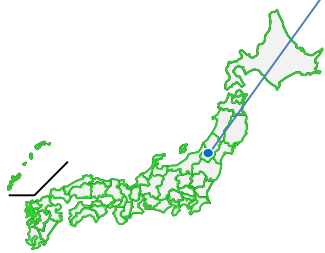
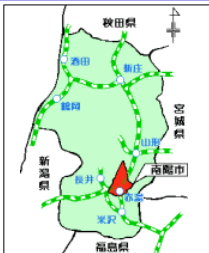


防災指針の検討状況：山形県南陽市

- 平成25年7月、平成26年7月の集中豪雨による吉野川の洪水で市街地に甚大な浸水被害が発生。さらに、市街地に隣接して土砂災害警戒区域等が分布している状況。
- 浸水想定と土砂災害警戒区域等の分布、生活サービス施設の立地や公共交通網を総合的に勘案した居住誘導区域の設定や、区域内の防災・減災対策を検討。

位置図

山形県南陽市



防災上の課題と 防災対策の取組の方向性

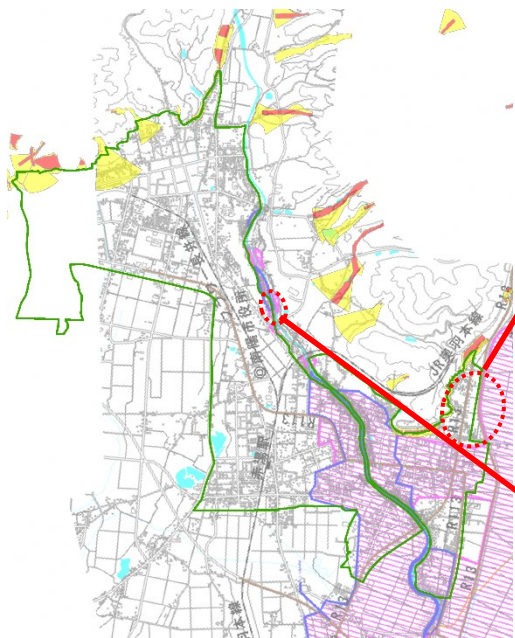
- 平成25年7月、26年7月の集中豪雨に伴う水害で、市街地において浸水被害が発生
- 市街地周辺においては、土砂崩れが発生



- 吉野川の改修（県）
- 雨水幹線の整備
- 浸水想定区域、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域を居住誘導区域から除外を検討
- 居住誘導区域内の浸水想定区域からの避難場所、避難経路の確保などによる防災対策の検討

<平成25年、平成26年の豪雨による被害状況>

【凡例】			
	H25.7浸水区域		土砂災害警戒区域
	H26.7浸水区域		土砂災害特別警戒区域
	用途地域		



白竜湖周辺の浸水状況
撮影日：H26.7.11



吉野川の氾濫による自動車学校
の浸水状況
撮影日：H25.7.18

過去の災害における被害状況

- 平成25年7月18日、22日
- ・赤湯地内において広範囲に浸水被害が発生
- ・被害状況〔床上浸水：5棟 床下浸水：49棟 人的被害：なし〕
- 平成26年7月9日
- ・赤湯地内において広範囲に浸水被害が発生
- ・被害状況〔床上浸水：144棟 床下浸水：265棟 人的被害：なし〕

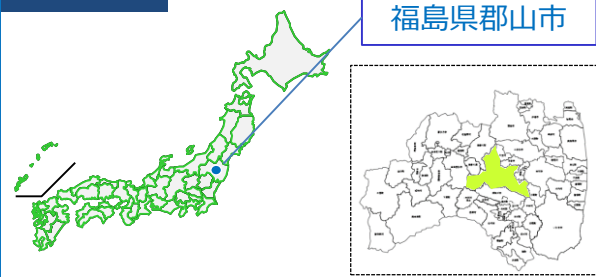


赤湯市街地の溢水状況
撮影日：H25.7.18
場所：南陽市柵塚地内
河川名：吉野川

防災指針の検討状況：福島県郡山市

令和元年10月の台風第19号において居住誘導区域の約2%（約54ha）が浸水し、住宅や都市機能（誘導施設）に甚大な被害が生じたため、立地適正化計画における居住誘導区域の見直しとともに、防災対策を検討する。

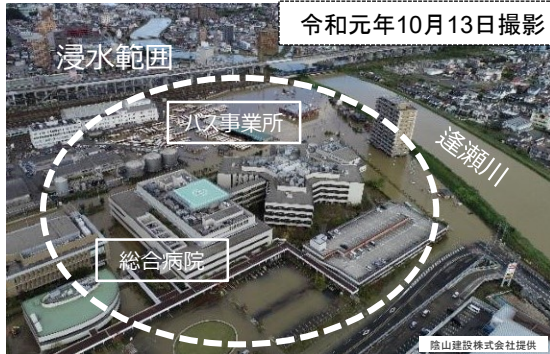
位置図



過去の災害における被害状況

【過去の甚大な水害】

- ◆昭和61年8月水害
- ◆平成10年8月水害
- ◆平成23年9月台風第15号
- ◆令和元年10月台風第19号
 - 一級河川阿武隈川、谷田川、逢瀬川などが越水
 - 市街化区域において広範囲に浸水被害が発生（居住誘導区域の一部も浸水）
 - 被害状況（R2.12.26現在 市内）
 - 〔床上浸水：6,542件 床下浸水：847件 人的被害7名〕

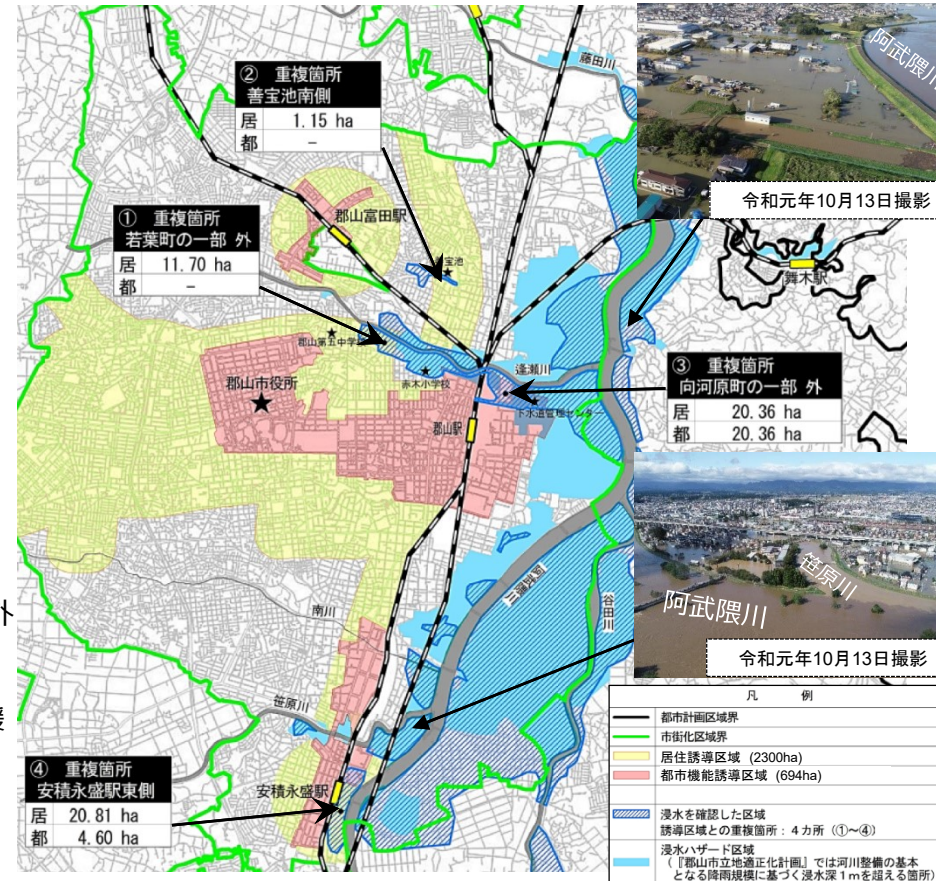


※ 右図の③箇所

防災上の課題と 防災対策の取組の方向性

（現状）居住誘導区域の設定はL1規模に基づく浸水深が1mを超える区域と家屋倒壊等氾濫想定区域を原則除外

- 居住誘導区域内の一部において浸水被害が発生
- 川沿いを中心に居住誘導区域外においても浸水被害が発生（特に工業団地で甚大な被害）
- 居住誘導区域から浸水被害の除外検討
- 高齢者等の要配慮者避難対策
 - ・住民による「地区防災マップ」作成支援
- 居住誘導区域内の浸水対策
 - ・雨水貯留施設の整備（内水対策）
- 移転対策支援の検討
 - ・移転者への財政支援



防災指針の検討状況：福島県須賀川市

○令和元年10月の台風19号による居住誘導区域内の人的被害及び住家浸水被害が甚大であったため、居住誘導区域の再検討や誘導区域内の高台等への移転構想の検討、誘導区域内の防災対策を検討予定。

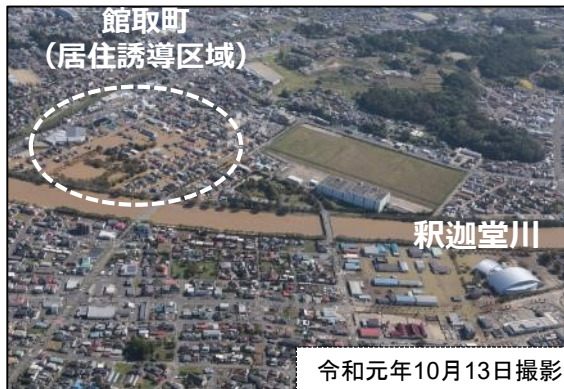
位置図

福島県須賀川市



台風19号豪雨災害の被害状況

- 居住誘導区域内（市内館取町等）においても人的被害が発生。
- 須賀川市の被害状況（R2.4.1現在）
〔床上浸水：829棟 床下浸水：233棟
居住誘導区域内の死者2名〕



防災上の課題と 防災対策の取組の方向性

- 居住誘導区域内において浸水被害が発生し、人的被害も発生（死者2名）
- 住民が自己負担で宅地の高上げを実施していた住宅もあったが、河川からの越水により、その高さを越えて浸水
- 居住誘導区域外の市街化区域においても浸水被害が発生

- 居住誘導区域内の浸水対策
 - ・防災行政無線戸別受信機配付
 - ・地元自主防災組織等の連携による各地域での避難行動計画作成 等
- 高齢者や障がい者の避難対策
- 内水排水施設的能力向上
- 長期的な移転施策なども検討



防災指針の検討状況：栃木県宇都宮市

- 宇都宮市では台風第19号により市中心部を流れる田川の溢水による大規模な浸水被害が発生
- 今回の台風第19号での経験を踏まえ、市ではこれまでの計画的な治水対策による雨水を「流す」取組を軸としながら、流域対策・土地利用対策による「貯める」取組、災害情報提供や避難誘導体制強化等の「防ぐ・備える」取組の3つの柱に基づく総合的な治水・雨水対策に重点的に取組んでいる。
- こうした取組と連携し、市が目指す「ネットワーク型コンパクトシティ」形成に向け、都市機能誘導区域等の防災指針も検討していく。

位置図

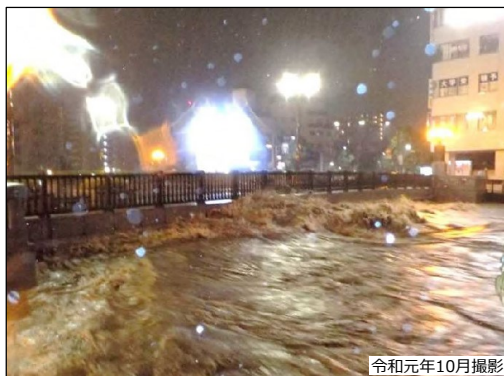
栃木県宇都宮市

宇都宮市



過去の災害における被害状況

- 台風第19号により、本市中心市街地を南北に縦断する田川をはじめとした主要河川が溢水し、市内で甚大な被害が発生〔床上浸水：636 床下浸水：390〕*
* 被害件数は本市の集計(非住家を除く)によるもの
- 中心市街地の都市機能誘導区域においても床上浸水等の被害が発生



令和元年10月撮影

田川の溢水状況（JR宇都宮西口駅前 宮の橋）

防災上の課題と 防災対策の取組の方向性

- まちの顔である中心市街地の都市機能誘導区域や、居住誘導区域の一部において浸水想定区域が存在
 - 台風第19号によりJR宇都宮駅西口周辺の都市機能誘導区域において、住宅、店舗、病院や福祉施設が浸水
 - 本市中心市街地に、様々な都市機能や居住の誘導を図るため、災害に強い都市づくりが必要
- ▼
- 「総合治水・雨水対策基本方針（R2.2）」の3つの柱に基づく取組
「流す」：流下能力向上に向けた治水対策
「貯める」：市域全体で雨水を貯留・浸透させる流域対策や農地等の保水・遊水機能を高める土地利用対策
「防ぐ・備える」：ハザードマップ等の災害情報の提供や避難誘導体制の強化 等



市街地の誘導区域および浸水想定区域



市街地の状況

防災指針の検討状況：埼玉県秩父市

令和元年台風19号では用途地域外や都市計画区域外を中心に家屋の全壊（浸水）をはじめとする住家等への被害、道路崩落により孤立集落が生じるなど被害甚大。市街地（用途地域内）における被害は少なかったが、県が本年5月に発表した水害リスク情報図には本市市街地も含まれ、誘導区域を再検討中。

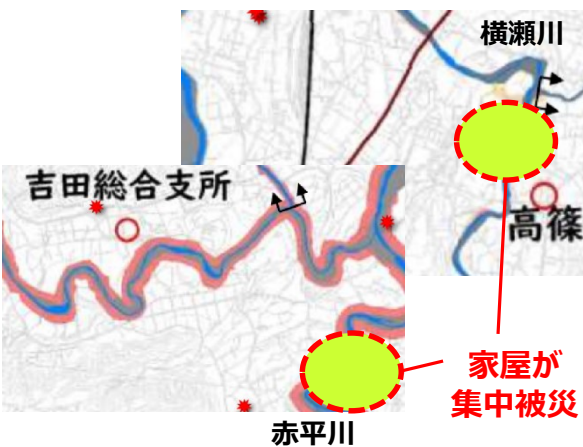
位置図



埼玉県秩父市

過去の災害における被害状況

- 令和元年台風19号被害状況
 ○浸水・土砂災害（罹災証明発行状況）
 全壊6件 大規模半壊2件
 半壊8件（うち土砂災害2件）
 一部損壊（準半壊）4件ほか



浦山地区では日雨量647.5mmを記録
 （埼玉県観測史上最大）

防災上の課題と 防災対策の取組の方向性

- 荒川が形成する河岸段丘の上に市街地が形成。市街地は災害が少なく安全とされる一方、山間地では豪雨のたびに土砂災害が発生。
- 主要道路が寸断されると陸の孤島になりがち。
- 荒川沿いの高さ20m～40mのがけ地に沿って宅地開発が進行。
- 本年5月に埼玉県が荒川上流における水害リスク情報図を公表。（それまでなし）

- 水害リスク情報図を踏まえた地域防災計画の見直しや立地適正化計画の策定。
- 危険ながけ地や水害リスクのある地域を誘導区域から除外しこれらのエリアへの宅地開発を抑制。
- 山間地の土砂災害（特別）警戒区域から誘導区域内へ移転促進。
- 水害リスク情報図の公表に伴う指定緊急避難場所の見直し。
- 水害リスク情報図の周知。（ハザードマップ・ホームページ）



令和元年10月台風19号通過直後の様子



中津川（都市計画区域外）で集落が孤立

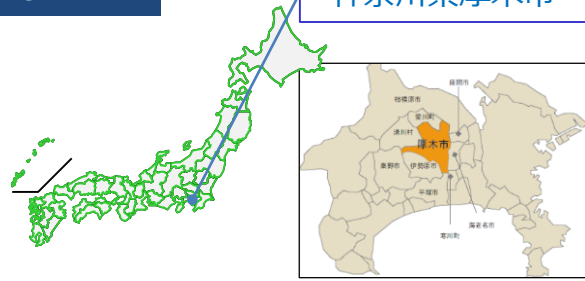


国道299号側面で土砂崩落で集落が孤立
 数日間通行止め（熊木町地内）

防災指針の検討状況：神奈川県厚木市

○本市の中心市街地が形成されている本厚木駅周辺は、市庁舎を始めとした高次都市機能が立地しているが、広い範囲で0.5m～3.0m未満の洪水浸水想定区域に指定されている。立地適正化計画の策定に併せて、洪水浸水ハザードマップ及び既往の市街地の成り立ち等を総合的に勘案した居住誘導区域の設定や区域内の防災・減災対策を検討する。

位置図



神奈川県厚木市

防災上の課題と 防災対策の取組の方向性

○相模川を始めとする主要6河川沿いに市街地が形成されており、広い範囲で洪水浸水想定区域が指定されている。

○都市中心拠点である本厚木駅周辺は、市庁舎を始めとした高次都市施設が立地し、立地適正化計画において都市機能誘導区域に定める予定だが、0.5m～3.0m未満の洪水浸水想定区域に指定されている。(①地域)

○河川沿いの市街地の一部は、3.0m以上の洪水浸水想定区域や家屋倒壊等氾濫想定区域に指定されている。(②地域)

【取組の方向性】

- 災害リスクの高い地域の居住誘導区域から除外検討
- 県と連携した河川整備の促進
- 排水施設整備の推進や雨水貯留機能の向上
- 浸水時の都市機能の維持
- 円滑かつ迅速な避難誘導に向けた取組の推進

過去の災害における被害状況

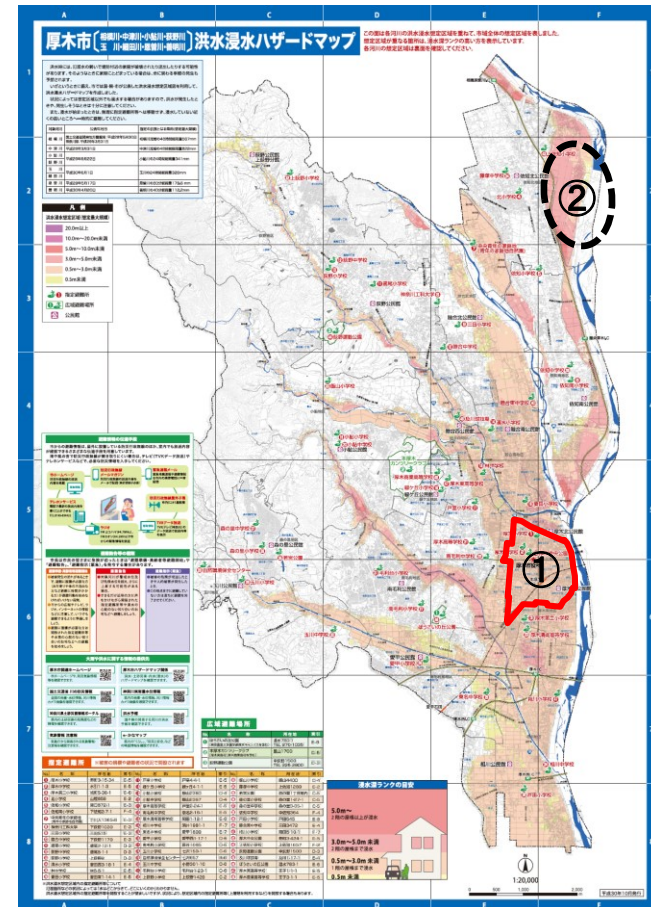
○平成25年大雨・台風18号による被害
過去最大となる1時間あたり65mmの大雨が降り、本厚木駅周辺（厚木排水区）を中心に床上・床下浸水などの浸水被害が発生。

○令和元年東日本台風

相模川上流の城山ダムが異常洪水時防災操作を実施。一部地域に避難指示を発令し、約5700人の市民が避難。



令和元年東日本台風による相模川の増水
(撮影日時：令和元年10月12日午前10時)

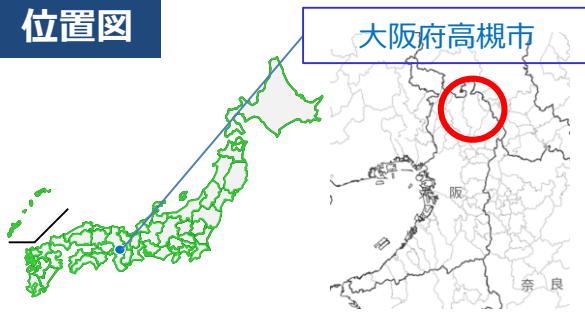


厚木市洪水浸水ハザードマップ (H30.10)

防災指針の検討状況：大阪府高槻市

本市では、大正6年10月の淀川堤防決壊（大塚切れ）をはじめ、昭和28年9月の芥川・女瀬川堤防決壊（台風13号）、昭和42年7月の女瀬川堤防決壊（北摂豪雨）などの大きな水害を経験してきた。また、市南部の大半が浸水想定区域であり、広域緊急交通路や鉄道施設も浸水想定区域に含まれることから、立地適正化計画において防災指針の記載を追加し、安全でコンパクトな魅力あるまちづくりを推進する。

位置図



防災上の課題と 防災対策の取組の方向性

課題

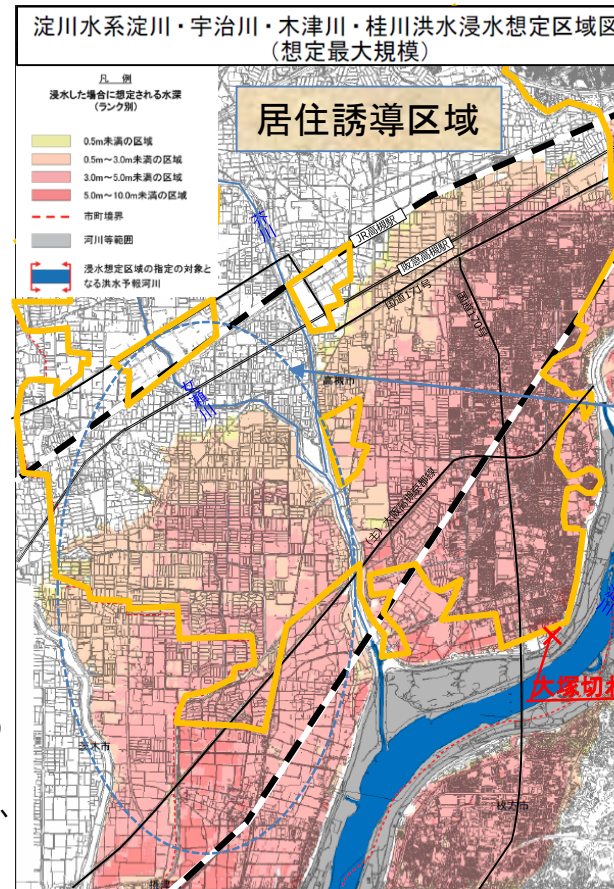
- 過去に淀川、女瀬川の堤防決壊による水害で市街地において度々浸水被害が発生
- 市南部の大半が浸水想定区域
- 広域緊急交通路（国道171号、国道170号、（主）大阪高槻京都線）、鉄道施設（東海道新幹線、JR西日本、阪急電鉄等）が浸水想定区域に含まれる

取組の方向性

- 災害リスクの周知などの避難の円滑化による居住誘導区域内の浸水対策
- 浸水想定箇所の居住誘導区域からの除外の検討
- 関係機関と浸水対策を検討（国、府、鉄道各社等連携）

過去の災害における被害状況

- 大正6年10月 淀川堤防決壊（大塚切れ）
被害状況〔浸水・流出家屋：15,000戸（市外含む）、堤防決壊：約200m〕
- 昭和28年9月 芥川・女瀬川堤防決壊（台風13号）
被害状況〔全・半壊家屋：327戸、床上床下浸水：8,393戸、堤防決壊：約150m〕
- 昭和42年7月 女瀬川堤防決壊（北摂豪雨）
被害状況〔全・半壊家屋：18戸、床上・床下浸水 7,266戸〕



防災指針の検討状況：大阪府忠岡町

令和3年3月の公表に向けて、都市計画マスタープランの見直し及び立地適正化計画の策定を実施中。今後、洪水・高潮・津波の浸水想定等と既往の市街地の成り立ち等を総合的に勘案した居住誘導区域の設定と併せて、区域内の防災・減災対策を示す防災指針の策定を検討。

位置図



防災上の課題と 防災対策の取組の方向性

○課題認識

- ・過去の水害で市街地において度々浸水被害が発生
- ・細街路が多く残り、避難所等へのアクセスに課題がある
- ・河川沿いに住宅が多く立地しており、全体的に平坦な地形であるため、水災害からの逃げ場確保が必要
- ・南海トラフの巨大地震を見据えて、津波、高潮対策等を講じる必要がある

○課題認識に基づく対応の方向性

- ・浸水想定を踏まえた居住誘導区域の設定
- ・排水ポンプ整備などによる居住誘導区域の浸水対策
- ・内水排水施設的能力向上
- ・垂直避難機能を持つ災害対応拠点の整備
- ・災害リスク情報提供システムの構築

過去の災害における被害状況

○平成29年10月台風21号に伴う大雨により氾濫寸前まで水位が増加



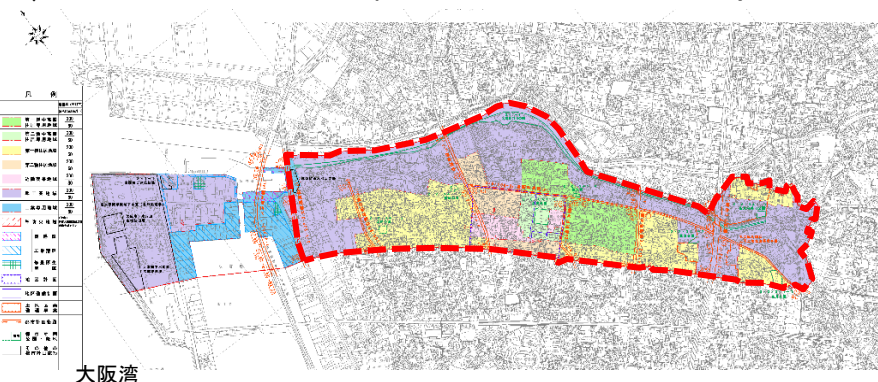
平常時の大津川橋並橋の様子

増水時の大津川橋並橋の様子

○平成28年7月の豪雨により、忠岡東地区等において広範囲に内水による浸水被害が発生。



◇忠岡町都市計画図（赤枠部には既成市街地が存在）



◇忠岡町洪水ハザードマップ（平成26年5月） （既成市街地の概ね全域に浸水が想定されている）

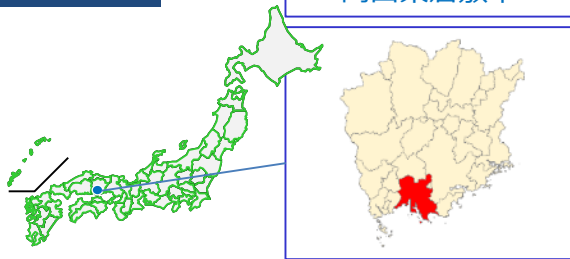


防災指針の検討状況：岡山県倉敷市

平成30年7月豪雨により、倉敷市真備地区においては、河川堤防が決壊し、市街地のほぼ全域が浸水するなど甚大な被害が発生。市域全体の洪水浸水想定等と、既存市街地の成り立ち等を総合的に勘案した居住誘導区域の設定や、区域内外の防災・減災対策を検討。

位置図

岡山県倉敷市



過去の災害における被害状況

- 真備地区で広範囲に浸水被害が発生（平成30年7月6～7日）
- 被害状況
堤防決壊：8箇所、一部損壊：7箇所
水没：約1,200ha（地区の約3割）
浸水深：最大約5m
住家被害：5,700棟超（全壊・大規模半壊等）
死者：51名（災害関連死を除く）



資料：国土交通省（平成30年7月8日撮影）

防災上の課題と 防災対策の取組の方向性

＜立地適正化計画策定中＞

- 真備地区では、過去においても度々浸水被害が発生
- 小田川合流点付替え事業（国）により平成30年7月豪雨レベルの浸水は解消されるが、事業完了までに5年を要する
- ハード・ソフト対策と併せて、立地誘導・土地利用規制など、まちづくりと一体的な対応が必要
- 治水対策の進捗により、災害リスクが低下すれば居住誘導区域への編入を検討
- 「浸水から命を守る」警戒避難体制の整備・充実
- ハザードエリアでの土地利用規制に向けた検討

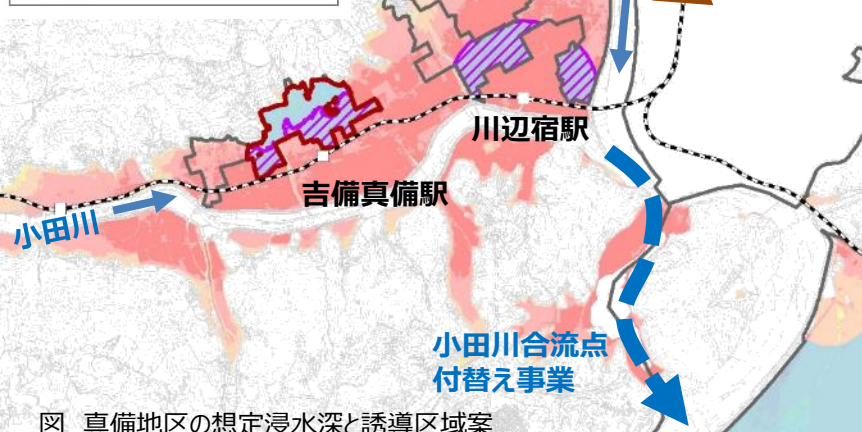
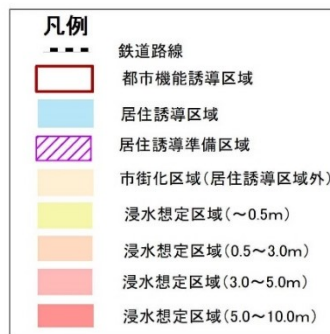


図 真備地区の想定浸水深と誘導区域案

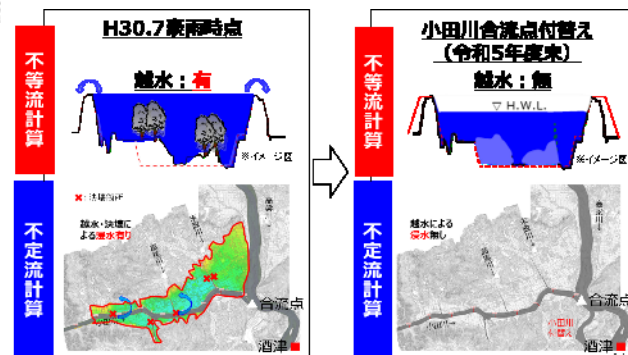


図 治水対策のイメージ

出典（引用）：国土交通省 真備緊急治水対策プロジェクト等の進捗・効果と今後の対策について

防災指針の検討状況：福岡県久留米市

平成30年7月豪雨により、筑後川に合流する支川流域で市街地の床上浸水被害が発生。特に被害の大きかった中小河川流域において、国、県と連携して取り組む『総合内水対策計画』を令和2年3月に策定。排水機場増設、放水路整備、貯留施設整備等のハード対策とソフト施策との連携によるシナジー効果（相乗効果）を目指す。引き続き災害発生のおそれがある土地の区域においては、長期的・全市的視点で防災対策の効果を見極めながら、居住誘導区域（立地適正化計画）の見直しを検討。

位置図

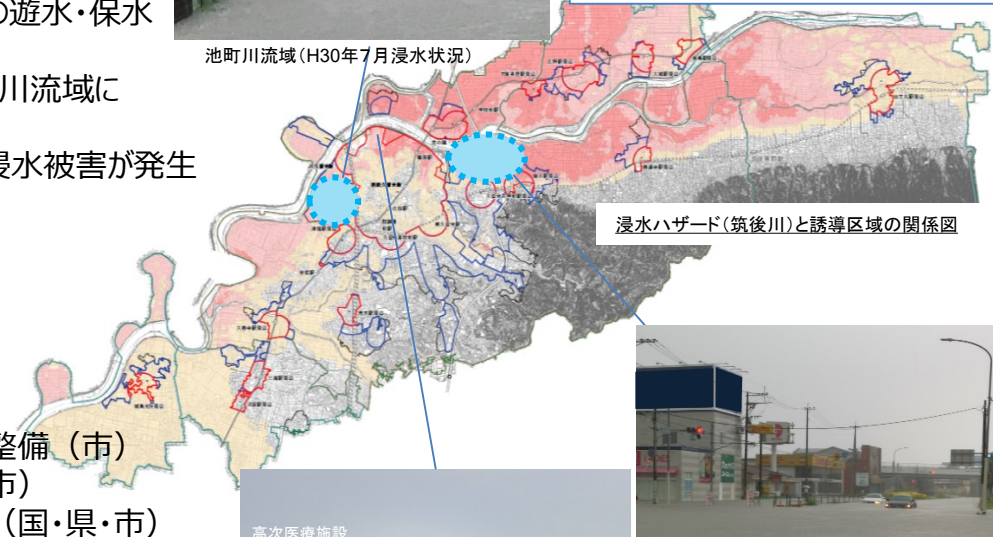


防災上の課題と 防災対策の取組（方向性）

- 気候変動による降雨の激甚化、高頻度化
- 市街化の進展に伴い、流域の遊水・保水機能が以前より低下
- 居住誘導区域を含む内水河川流域において浸水被害が発生
- 居住誘導区域外においても浸水被害が発生

- ### 【ハード対策】
- 排水機場のポンプ増設（国）
 - 放水路の整備（県）
 - 流域貯留施設・雨水幹線の整備（市）
 - 既存河川施設の改良（県・市）
 - 河道・管理施設の維持管理（国・県・市）

- ### 【ソフト対策】
- ウェブ版ハザードマップの導入（市）
 - 市街化抑制による遊水・保水機能の確保（市）
 - 居住誘導区域内の避難指針検討（市）
 - 居住誘導区域の見直し検討（市）



筑後川に隣接し立地する高次医療施設（R2年7月増水時撮影）

過去の災害における被害状況

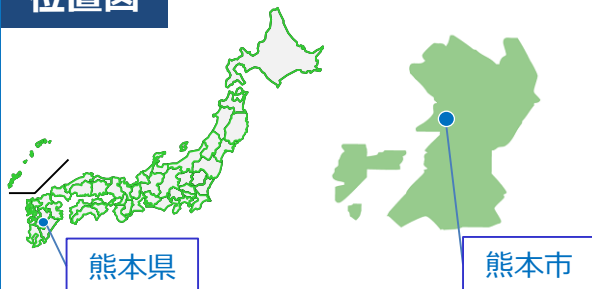
- 居住誘導区域を含む内水河川流域において広範囲に浸水被害が発生。
- 被害状況（H30.7豪雨）
〔金丸川・池町川流域〕
床上浸水369棟、床下浸水612棟
〔下弓削川流域〕
床上浸水304棟、床下浸水1059棟



防災指針の検討状況：熊本県熊本市

中心市街地など居住誘導区域に浸水想定区域（洪水）が存在している中、地域住民等が災害リスクを自覚し、リスクを管理・共有していくことにつなげ、安全なまちづくりを推進するため、居住誘導区域における災害リスクを明示するとともに、防災に関する取組方針や対策等を防災指針としてとりまとめ、立地適正化計画に追加。

位置図



防災上の課題と 防災対策の取組の方向性

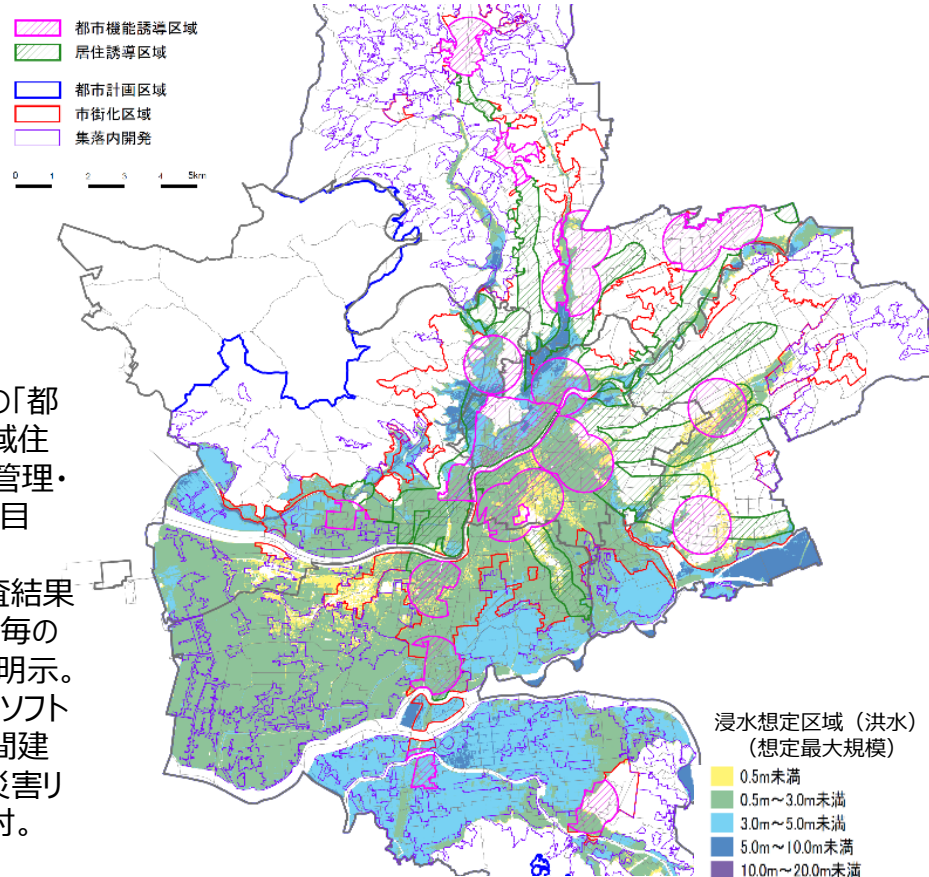
○中心市街地など居住誘導区域に浸水想定区域（洪水）※が存在している。

※各河川（白川、緑川など）の想定最大規模による浸水想定区域

○都市マスタープラン（H29改定）の「都市防災の方針」を基本としつつ、地域住民等が災害リスクを自覚し、リスクを管理・共有していく上で、対策・行動時の“目安”となるものも検討。

○ハザード情報や都市計画基礎調査結果等、各種データを活用し、地域拠点毎の居住誘導区域における災害リスクを明示。

○関係部署と連携し、従来のハード・ソフト対策に加え、インセンティブによる民間建築物の防災機能強化・誘導など、災害リスクを踏まえた今後の取り組みを検討。



過去の災害における被害状況

（平成24年九州北部豪雨災害）

○7/12未明から昼前にかけて、熊本県熊本地方・阿蘇地方・芦北地方・球磨地方では雷を伴った猛烈な雨となり、阿蘇カルデラ内を流れる白川水系黒川や下流の熊本市市街地を貫流する白川では、河川の水位が大きく上昇し流域全体で甚大な被害が発生。

○被害状況（熊本市域のみ）
〔床上浸水：331棟 床下浸水：493棟〕

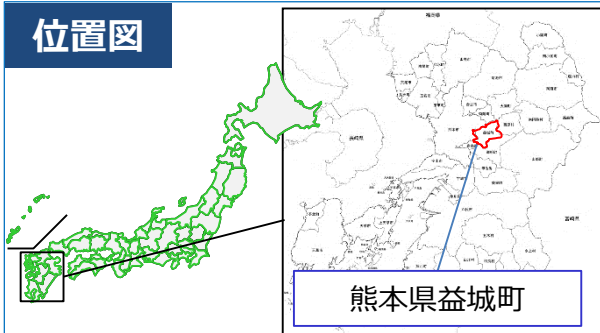


白川の氾濫による北区龍田地区の浸水状況（H24.7撮影）

防災指針の検討状況：熊本県益城町

○平成28年4月の熊本地震において、地盤が沈下し、同年6月や平成30年9月の集中豪雨等により、浸水被害が発生。既往の水害や、洪水による浸水想定と、既往の市街地の成り立ち、震災からの復興事業等を総合的に勘案した居住誘導区域の設定や、区域内の防災・減災対策を検討。

位置図



熊本県益城町

過去の災害における被害状況

■地震

◆平成28年熊本地震

○被害状況（R2.6.12現在）

住家被害：全壊3,026棟、半壊3,233棟、一部損壊4,325棟

人的被害：死亡45名、重傷135名、軽傷31名

H28.4 役場



H28.4 宮園



■豪雨

◆平成28年6月集中豪雨

福富本村、福富入道、安永地区で浸水被害が発生。

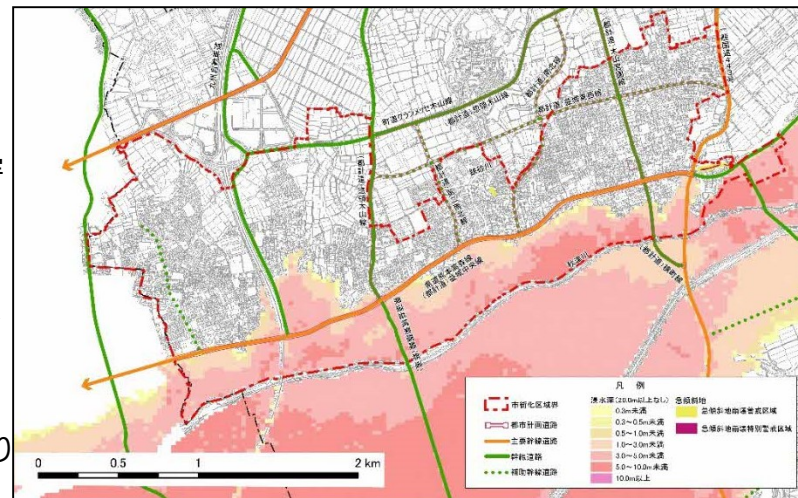
○被害状況

〔床上浸水：84戸、床下浸水：271戸〕

防災上の課題と 防災対策の取組の方向性

＜立適を策定中＞

- 過去のの水害で市街地において度々浸水被害が発生
- 市街化区域南側の広範囲がハザードマップの浸水想定区域に該当
- 平成28年熊本地震後、浸水想定区域内への自宅再建あり
→地震の経験および高齢化により 平屋での再建が多くなっている
- 復興事業により移転を余儀なくされる住民あり



- 浸水箇所の居住誘導区域からの除外を検討
- 雨水管理総合計画の策定→内水排水施設の能力向上（ポンプによる強制排水、フラップゲート設置等）
- 被災市街地復興土地地区画整理事業（県）による基盤整備
- 復興事業による移転先となる住宅地等（新住宅エリア）を確保
- まちづくり協議会を地区ごとに設立し、地区の特性にあった避難計画などを、地元住民主体で検討
- 複合防災施設の整備検討

H30.7 福富



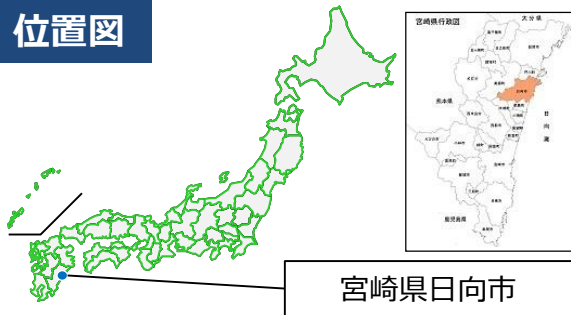
H30.7 安永



防災指針の検討状況：宮崎県日向市

本市は、南海トラフ巨大地震により、大規模な被害を受けることが予想されており、平成26年に「南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域」の指定を受け、津波避難タワー等の整備を進めてきた。また、市街地中心部を流れる2級河川塩見川沿川において、浸水被害が発生している。これらの水害と市街地の成り立ちや地域特性等を総合的に勘案した居住誘導区域の設定や区域内の防災・減災対策を検討中。

位置図



宮崎県日向市

過去の災害における被害状況

- 高見橋通り区や広見区等において、大雨時に床下浸水被害が度々発生。
- 大規模被害状況（平成28年台風16号）
[床上・床下浸水106棟]
・総雨量約600mm
・塩見川（縁開橋）最高水位 3.49m
（氾濫危険水位 3.1m）



平成27年4月10日撮影・広見区・市道 高見橋新財市線

防災上の課題と 防災対策の取組の方向性

- 都市構造
 - ・市街化区域内の要整備区域のうち約5割の面的整備が完了。
 - ・市街化区域内に総人口（約6万人）の約8割が居住。
- 津波（発生頻度低い）
 - ・南海トラフ巨大地震の津波による被害想定として、市街化区域の8割が浸水、犠牲者1万5千人（H25.10公表）
 - ・日向市津波防災地域づくり推進計画に基づき避難施設の整備等に取り組み、令和2年度までに津波避難困難地域の解消が図られ、犠牲者数は5900人※に減少。
※ R2県民意識調査による早期避難率56%を反映
- 浸水（想定最大規模）
 - ・塩見川沿川が浸水被害想定区域となり、過去の大雨で低地帯部において度々浸水被害が発生。

- 早期避難を促す津波浸水深表示看板等の整備や排水ポンプ設置などの被害軽減対策の充実。
- 津波浸水深により区域を分けた対策の検討。
- 洪水浸水対策として、宅地高上げや高台移転策などを長期的視点から検討。

